

5 不活化ワクチン

DPT-IPV

(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)



2012年11月導入

DPT-IPV(4種混合)ワクチンはどんな病気を予防するの？

●ジフテリア(Diphtheria)

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染すると、高熱、のどの痛み、犬が吠えるような咳、激しい嘔吐などが起こります。咽頭部の腫脹によって窒息死することもあります。また、発病から2～3週間後には菌の出す毒素により心筋炎や神経麻痺を起こすことがあります。しかし、感染しても10%程度の人にしかこれらの症状が現れず、残りの人は症状が出ない不顕性感染のため、保菌者である自覚がないまま、菌だけをまき散らすこともあります。

●百日せき(Pertussis)

百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通のカゼのような症状で始まり、咳がひどくなり、連続的にせき込むようになります。咳の後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音(レブリーゼ)が出るのが特徴で、高熱は出ません。乳幼児の場合は、咳で呼吸困難になることが多く、チアノーゼ(血中の酸素が欠乏

して皮膚が青黒くなる症状)や、けいれんが起こることがあります。また、肺炎や脳炎などの重い症状を併発することがあります。

この病気は成人でもかかることがあります。子どもと症状が違い、咳が主症状で1～2カ月続きます。咳だけでも菌をまき散らし、子どもにうつすことがありますので、長期(2週間以上)に咳がとまらない時には、医師の検査を受けましょう。

●破傷風(Tetanus)

土の中に潜んでいる破傷風菌が傷口から感染して起こります。自分でも気づかない程度の軽い傷が感染の原因になることもあります。菌の出す毒素により、手足のしびれやけいれん、口が開かないなどの症状が起こり、その後の処置が遅れると生命にかかわります。破傷風菌は日本中どこにでもあります。予防接種で免疫をつくっておけば安心です。

●ポリオ

「小児マヒ」と呼ばれる病気です。ポリオウイルスは人から人へ感染します。感染した人の便中に排泄されたウイルスが口から入り、腸に感染します。感染したウイルスは3～35日間(平均7～14日間)腸の中で増えますが、ほとんどは症状が出ない不顕性感染で終わり、一生、免疫が得られます。症状が出る場合は、ウイルスが血液を仲介して脳・脊髄へと感染し、麻痺を起こすことがあります。

100人中5人程度はカゼに似た症状を呈し、発熱に続いて頭痛、嘔吐が現れます。一部の人は永久に麻痺が残ります。麻痺の発生率は感染した人の200～1,000人に1人の割合です。呼吸筋の麻痺で呼吸困難になり死亡する例もあります。

一部の国では野生株のポリオの流行が残っており、日本へ侵入してくる可能性があります。感染予防のためワクチンで免疫をつくっておく必要があります。

接種を受ける時期と間隔は？

[1期…初回接種] (DPT-IPV)

●対象者年齢

生後3～90カ月まで
(標準接種年齢:3～12カ月未満)

●回数

3～8週間の間隔で3回の皮下注射

[1期…追加接種] (DPT-IPV)

●対象者年齢

初回接種終了後6カ月以上
(標準:初回接種終了後12カ月以上18カ月未満)

●回数

1回の皮下注射

[2期] (DT)

●対象者年齢

11、12歳
(標準接種年齢:11歳)

●回数

1回の皮下注射

※DT(2種混合)ワクチンを用いる

DPT-IPV(4種混合ワクチン)の副反応は？

●注射部位が赤くなる、腫れる、しこりができる、また全身では、発熱、下痢などがあります。

●機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは、かかりつけの医師にご相談ください。

●不活化ポリオワクチンなのでワクチン関連麻痺(VAPP)の心配はありません。

●接種日メモ

